

案

毎日の生活についてのアンケート調査
(児童生徒向けヤングケアラー実態調査)
報告書

令和5年2月

川越市 こども未来部

目次

I 調査概要	1
II 調査結果	2
(1) 家庭内でケアを行っている人の状況について	2
(1) - 1 家庭内でケアが必要な人の有無	2
(1) - 2 ケアの開始時期、ケアを必要とする人とその理由、ケアの内容	3
(1) - 3 ケアを一緒に行っている人	6
(1) - 4 ケアの頻度、ケアに費やす時間	7
(1) - 5 ケアによる日常生活への影響	9
(1) - 6 相談した経験の有無	10
(1) - 7 希望するサポート	11
(1) - 8 希望する相談方法	12
(1) - 9 ヤングケアラーについて	13
(1) - 10 ヤングケアラーという言葉聞いたことがあるか	15
(2) 家庭内でのケアの有無による生活への影響について	16
(2) - 1 体調について	16
(2) - 2 通学状況について	17
(2) - 3 習い事や部活動への参加	20
(2) - 4 ふだんの学校生活ではまるもの	21
(2) - 5 今、悩んだり、困ったりしていること	23
(2) - 6 悩みや困りごとがあったときの相談相手の有無	24
(3) 自由意見について（一部抜粋）	25
～資料編～	27
III 対象者全体の調査結果	28
IV 小学生の調査結果	45
V 中学生の調査結果	60
VI 高校生の調査結果	75
VII アンケート内容（小学生）	93
VIII アンケート内容（中学生・高校生）	101

I 調査概要

1 調査目的

当事者自身にケアラーという自覚がない、または家族が支援を求めないなど、潜在化しやすい傾向があるヤングケアラーについて、本市の実態を把握するため、市内の児童生徒を対象とした実態調査を行った。

併せて、ヤングケアラーとなる児童生徒のケアの状況、悩みごと、支援のニーズ等を把握することにより、必要な施策に反映していかうとするものである。

2 調査対象

・市立小学校 32 校の 4 年生から 6 年生	8,759 人
・市立中学校 22 校の 1 年生から 3 年生	8,568 人
・市立川越高等学校の 1 年生から 3 年生	839 人
・市立特別支援学校の 1 年生から 3 年生	48 人
計	18,214 人

3 調査方法

各学校を通じて保護者向けの依頼文書を配布した上で、児童生徒が各自のタブレット端末またはスマートフォン等により、「川越市電子申請・届出サービス」で回答する無記名アンケートにより実施。

4 調査期間

令和 4 年 9 月 12 日（月）～10 月 3 日（月）

5 回答状況

調査対象	回答者数 (人)	回収率 (回答者/対象者)
小学校 4 年生～6 年生	1,759	20.1%
中学校 1 年生～3 年生	1,699	19.8%
市立川越高校 1 年生～3 年生	66	7.9%
特別支援学校 1 年生～3 年生	48	100.0%
合計	3,572	19.6%

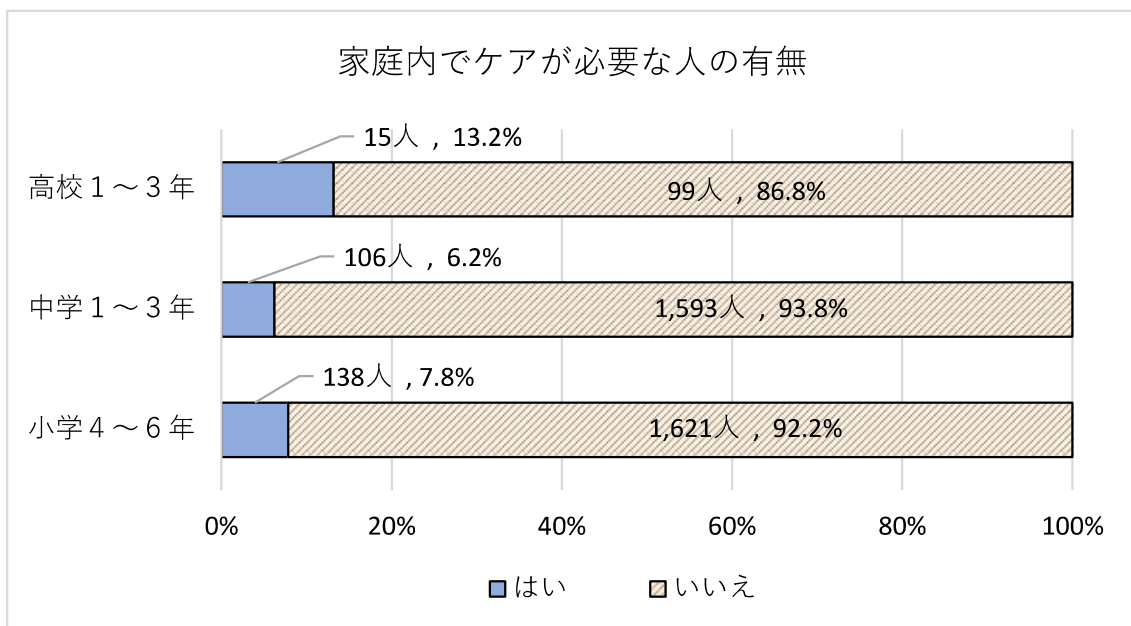
Ⅱ 調査結果

(1) 家庭内でケアを行っている人の状況について

家庭内でケアを行っている人のケアの状況、日常生活への影響等の設問に対する回答から、家族のケアを行うことが子どもにどのような影響を与えるのかを分析した。また小学生、中学生、高校生の各年代の集計を行うことで年代によるケアの内容、費やす時間等の違いについても比較・分析を行った。

(1) - 1 家庭内でケアが必要な人の有無

「家庭内でケアが必要な人の有無」では、「家族の中であなたのケアを必要としている人がいるか」という問いに対し、小学生、中学生、高校生の回答者 3,572 人のうち、7.3%に当たる 259 人（小学 4～6 年・138 人（7.8%）、中学 1～3 年・106 人（6.2%）、高校 1～3 年・15 人（13.2%））が「ケアが必要な人がいる」と回答している。



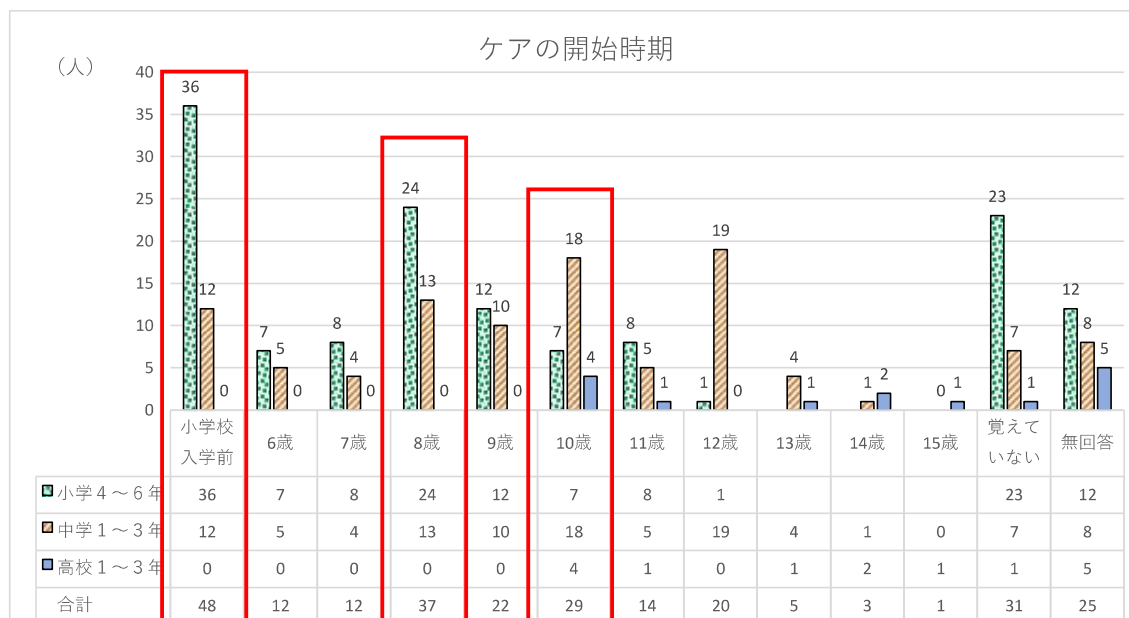
(1) - 2 ケアの開始時期、ケアを必要とする人とその理由、ケアの内容

(1) - 1において家庭内でケアが必要な人がいると回答した 259 人（小学 4～6 年・138 人、中学 1～3 年・106 人、高校 1～3 年・15 人）のケアの開始時期、ケアを必要としている人とその理由、ケアの内容に関し考察した。

- ① 小学生では、小学校入学前や入学後（8～9歳）の頃からケアを開始し、弟や妹、母親の見守りや世話、家事、買い物の付添いをするという回答が多くみられる。
- ② 中学生では、小学生（10～12歳）の頃からケアを開始し、小学生と同様に弟や妹、母親の見守りや世話、家事、買い物の付添いをするという回答が多くみられる。
- ③ 高校生では、小・中学生の頃からケアを開始し、家事や買い物の付添いをするという回答が多くなっている。

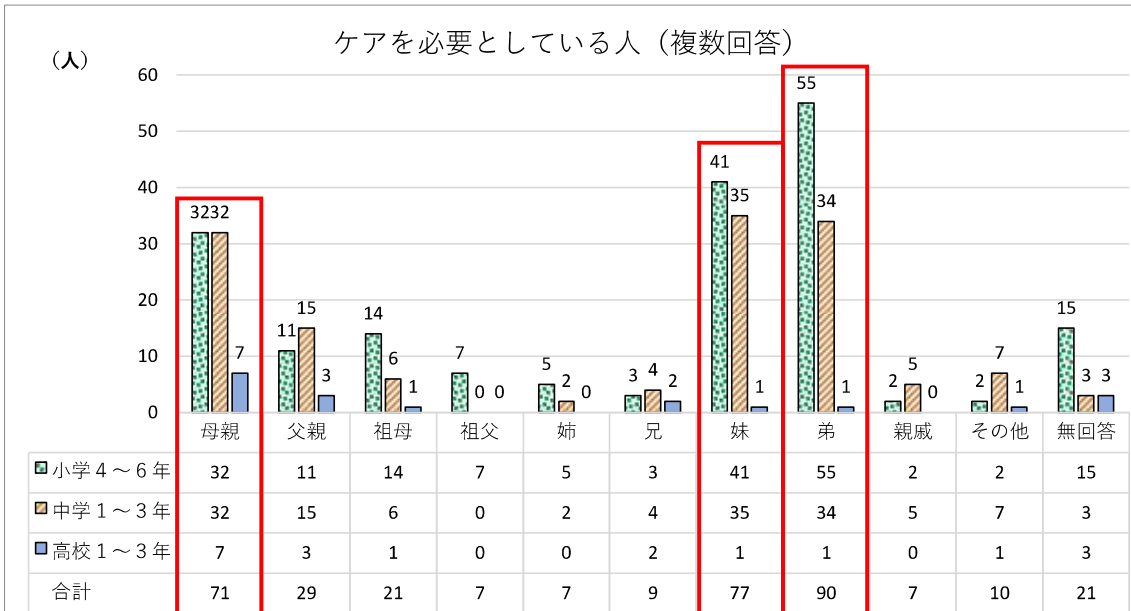
◆ケアの開始時期

「ケアの開始時期」に関し 259 人に回答を求めたところ、無回答を含む全回答者（259 人）の中で「小学校入学前」が最も多く（48 人・18.5%）、次いで「8 歳」（37 人・14.3%）、「10 歳」（29 人・11.2%）であった。また、「覚えていない」（31 人・12.0%）、「無回答」（25 人・9.7%）という回答もあった。



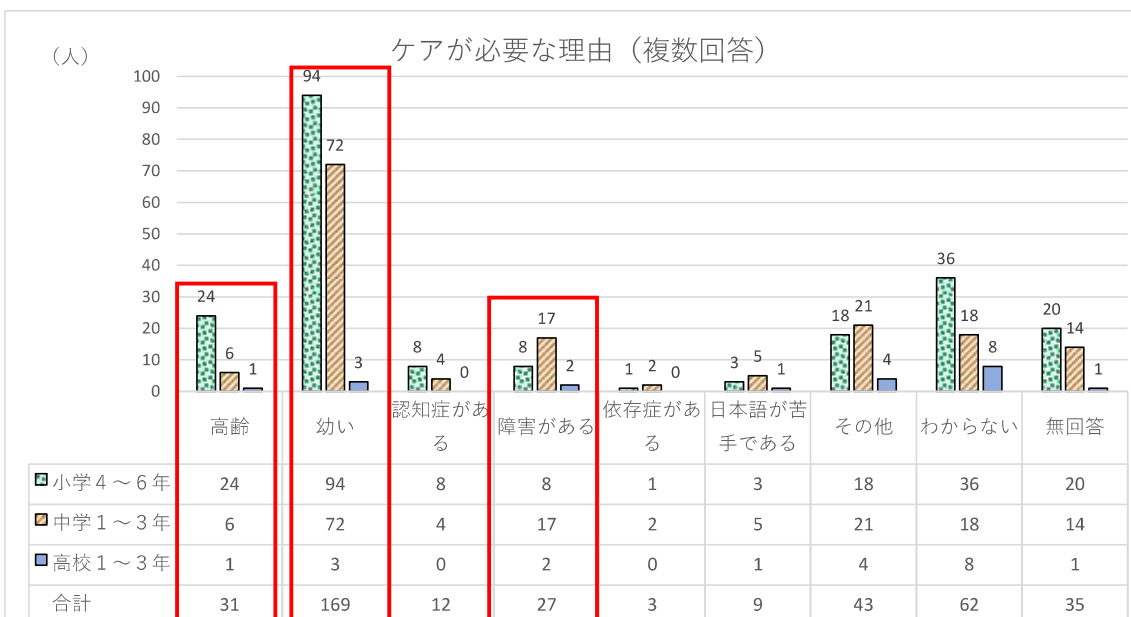
◆ケアを必要としている人

「ケアを必要としている人」に関し 259 人に複数回答を求めたところ、「弟」が最も多く（90 人・34.7%）、次いで「妹」（77 人・29.7%）、「母親」（71 人・27.4%）となった。



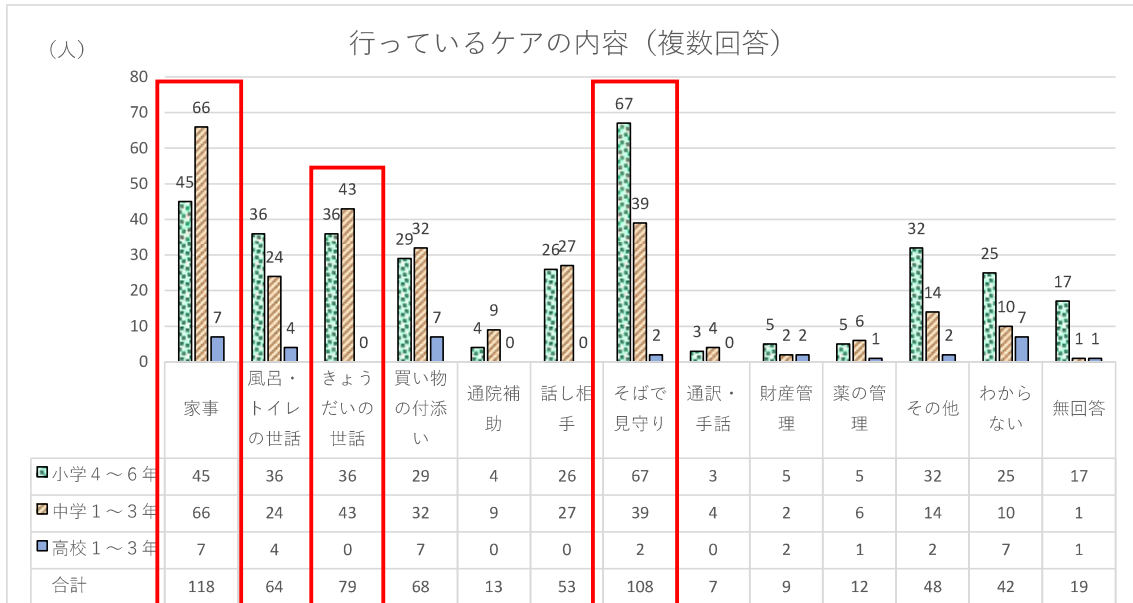
◆ケアが必要な理由

「ケアが必要な理由」に関し 259 人に複数回答を求めたところ、「幼い」が最も多く（169 人・65.3%）、次いで「高齢」（31 人・12.0%）、「障害がある」（27 人・10.4%）となった。



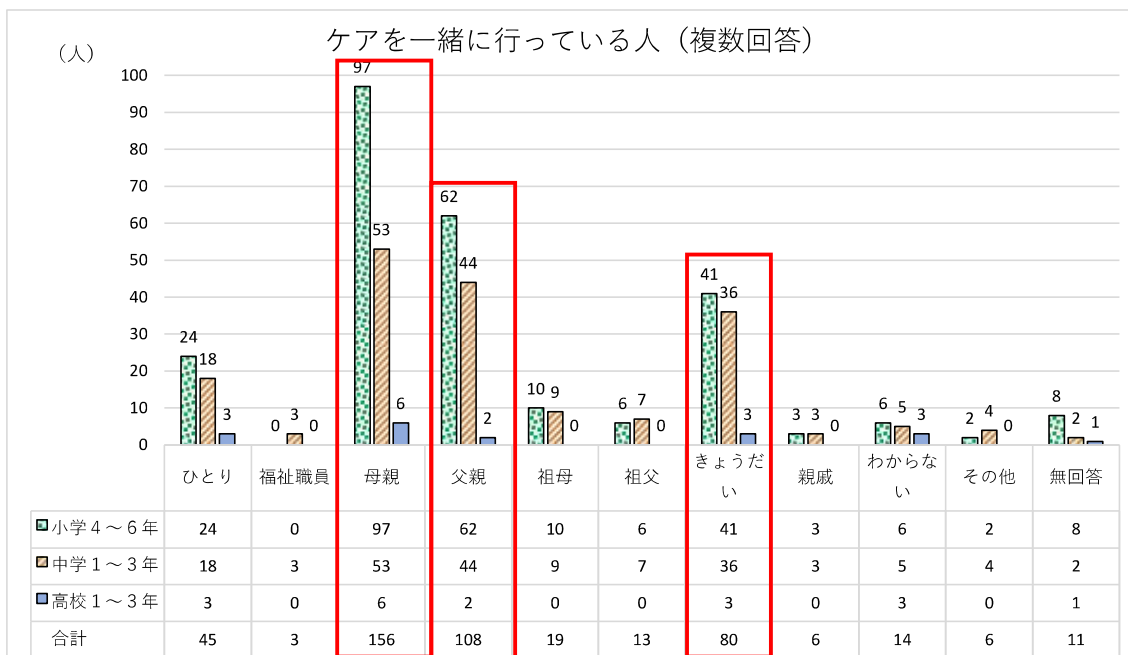
◆行っているケアの内容

「行っているケアの内容」に関し 259 人に複数回答を求めたところ、「家事」が最も多く（118 人・45.6%）、次いで「そばで見守り」（108 人・41.7%）、「きょうだいの世話」（79 人・30.5%）となった。



(1) - 3 ケアを一緒に行っている人

「ケアを一緒に行っている人」に関し、家庭内でケアが必要な人がいると回答した 259 人に複数回答を求めたところ、「母親」が最も多く（156 人・60.2%）、次いで「父親」（108 人・41.7%）、「きょうだい」（80 人・30.9%）となった。その一方で、「ひとりでケアを行っている」という回答（45 人・17.4%）もみられる。



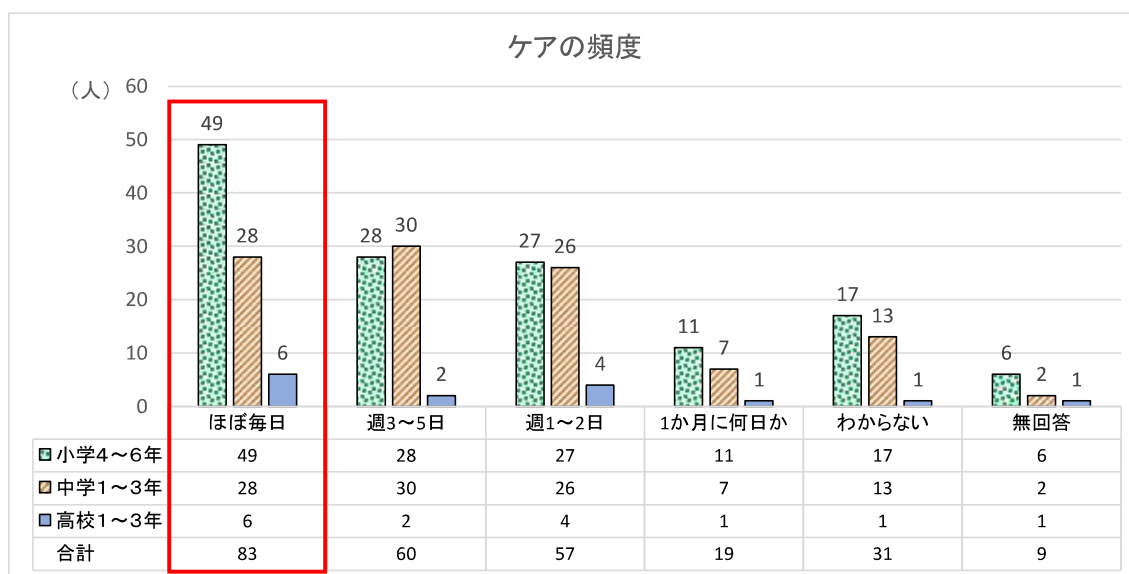
(1) - 4 ケアの頻度、ケアに費やす時間

家庭内でケアが必要な人がいると回答した 259 人のケアの頻度、ケアに費やす時間に関し、考察した。

- ① 「ケアの頻度」では、1週間に1日以上ケアを行っている小学生・中学生・高校生の合計は 200 人であり、1か月の間でケアをする日があると回答している者（219 人）の 9割以上（91.3%）となっている。このうち、ほぼ毎日ケアを行っている小学生・中学生・高校生の合計は 83 人であり、1か月の間でケアをする日があると回答している者（219 人）の 37.9%となっている。
- ② 「ケアに費やす時間」では、回答のあった小学生・中学生・高校生の合計 240 人のうち、127 人（52.9%）が1時間未満となっているが、7時間以上を費やしていると回答している者も 7 人（2.9%）みられる。

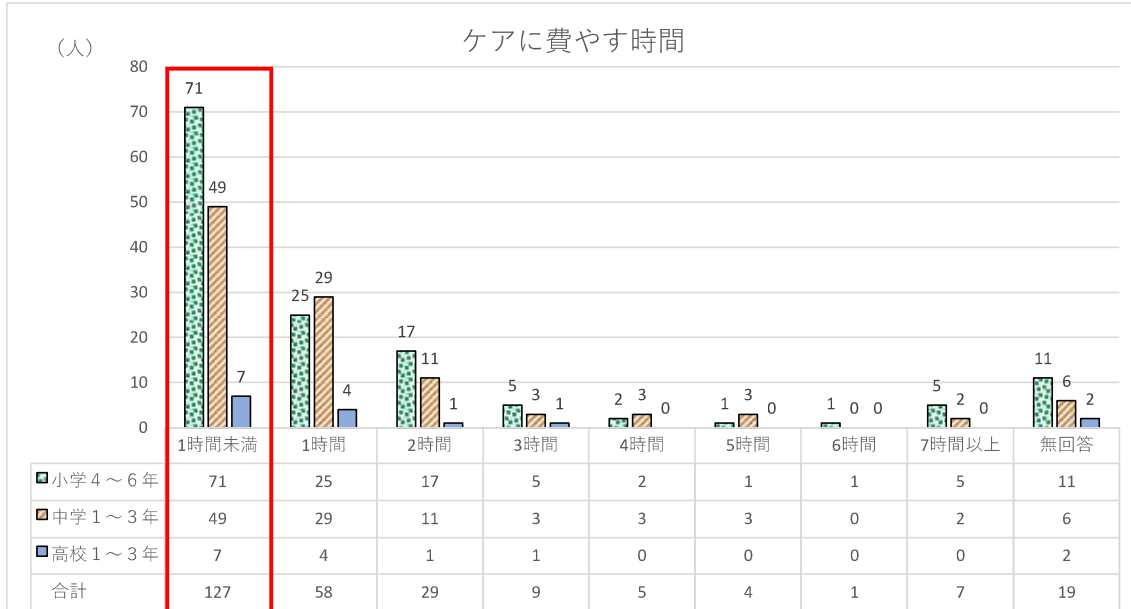
◆ケアの頻度

「ケアの頻度」に関し 259 人に回答を求めたところ、「ほぼ毎日ケアを行っている」が最も多く（83 人・32.0%）、次いで「週に 3～5 日」（60 人・23.2%）、「週に 1～2 日」（57 人・22.0%）であった。



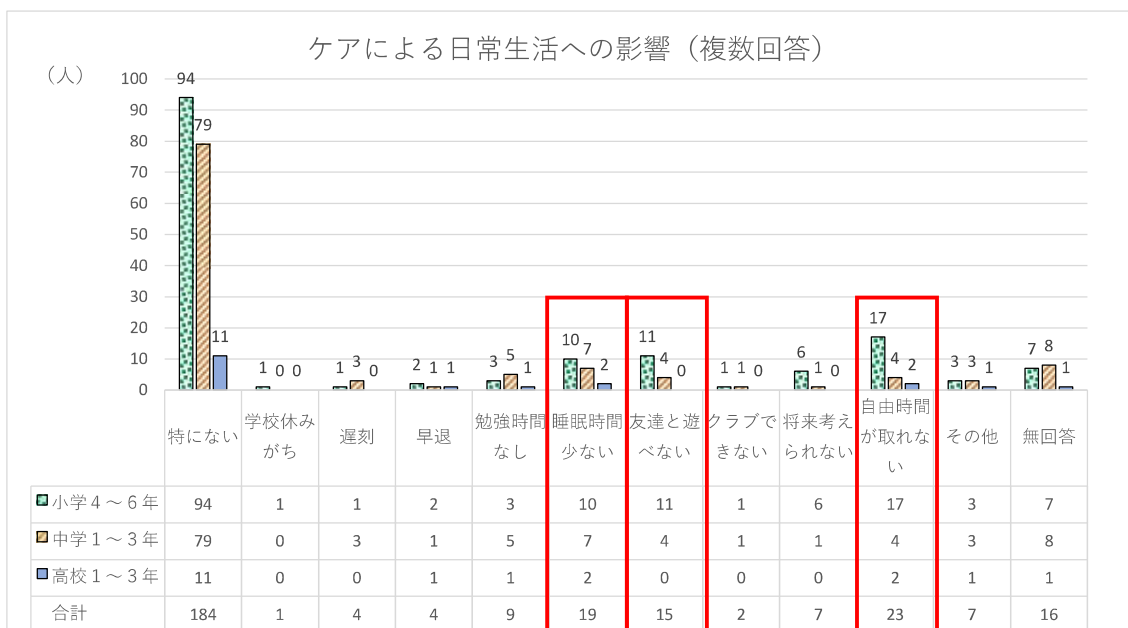
◆ケアに費やす時間

「ケアに費やす時間」に関し 259 人に回答を求めたところ、「1 時間未満」が最も多く（127 人・49.0%）、次いで「1 時間」（58 人・22.4%）、「2 時間」（29 人・11.2%）となった。



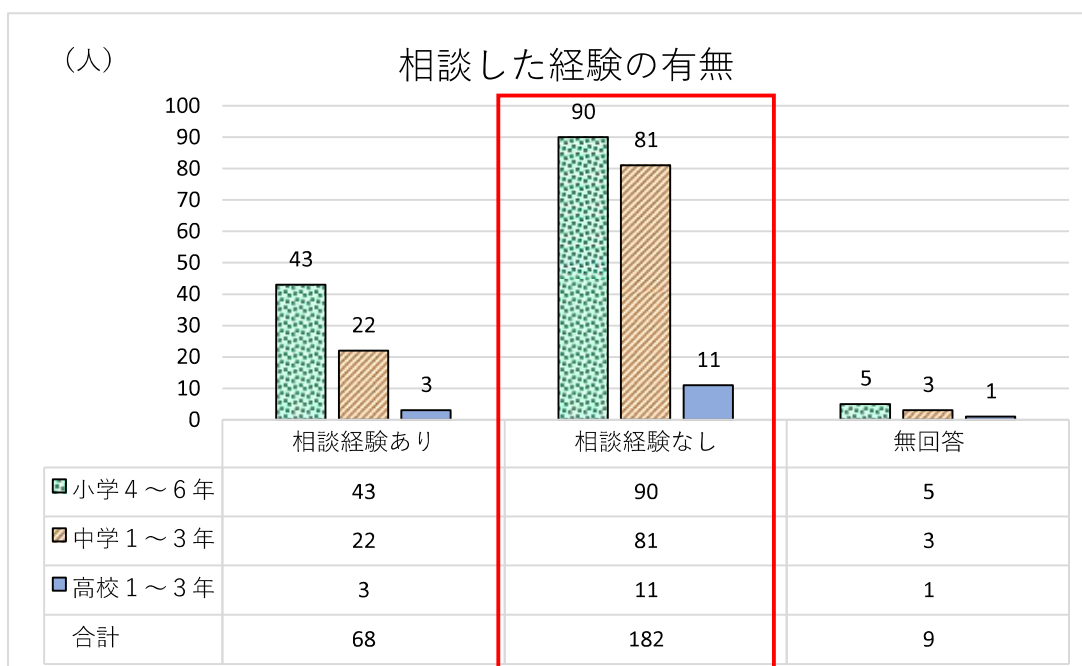
(1) - 5 ケアによる日常生活への影響

「ケアによる日常生活への影響」に関し、家庭内でケアが必要な人がいると回答した 259 人に複数回答を求めたところ、184 人（71.0%）は「特にない」と回答している。なお、日常生活への影響としては、「自由時間が取れない」（23 人・8.9%）、「睡眠時間が少ない」（19 人・7.3%）、「友達と遊べない」（15 人・5.8%）となった。



(1) - 6 相談した経験の有無

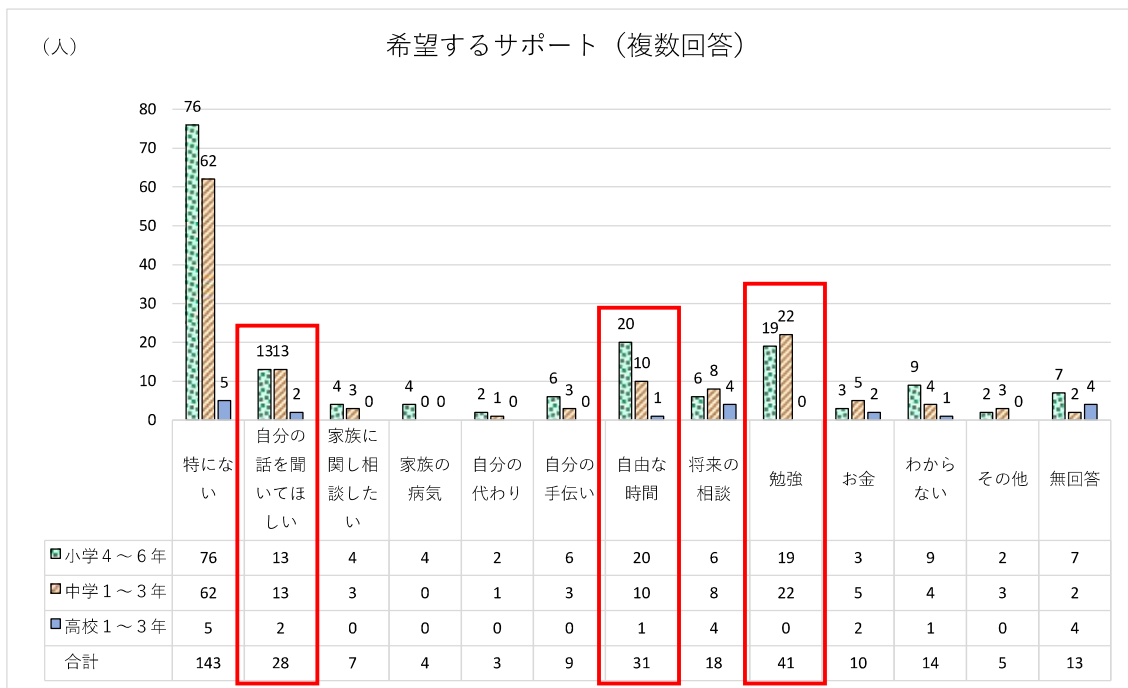
「相談した経験の有無」に関し、家庭内でケアが必要な人がいると回答した 259 人に回答を求めたところ、「相談経験なし」(182 人・70.3%)、「相談経験あり」(68 人・26.3%) となった。なお、「相談経験あり」と回答した小学生は家庭内でケアが必要な人がいると回答した 138 人のうち 43 人 (31.2%)、中学生は家庭内でケアが必要な人がいると回答した 106 人のうち 22 人 (20.8%)、高校生は家庭内でケアが必要な人がいると回答した 15 人のうち 3 人 (20.0%) であり、年齢が高くなるごとに相談経験の割合が低い傾向となっている。



(1) - 7 希望するサポート

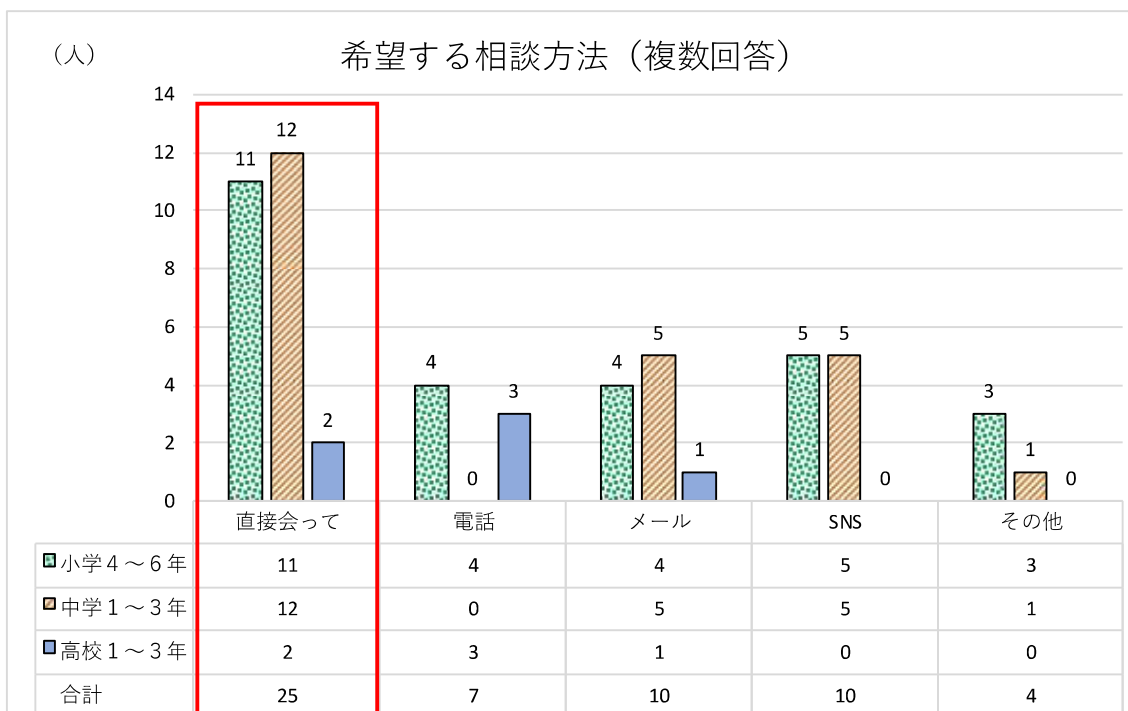
「希望するサポート」に関し、家庭内でケアが必要な人がいると回答した 259 人に複数回答を求めたところ、「特にない」という回答が 143 人（55.2%）となった。

また、希望するサポートを具体的に挙げた回答では、「勉強」が 41 人（15.8%）、「自由な時間が欲しい」が 31 人（12.0%）、「自分の話を聞いてほしい」が 28 人（10.8%）となった。



(1) - 8 希望する相談方法

「希望する相談方法」に関し、(1) - 7において「自分の話を聞いてほしい」、「家族に関し相談したい」「将来の相談」と回答した45人(小学4~6年・19人、中学1~3年・21人、高校1~3年・5人)に複数回答を求めたところ、「直接会って」という回答が小学生、中学生、高校生の合計で25人と最も多くなっている。このほか、メールやSNSによる相談を希望する回答もみられる。



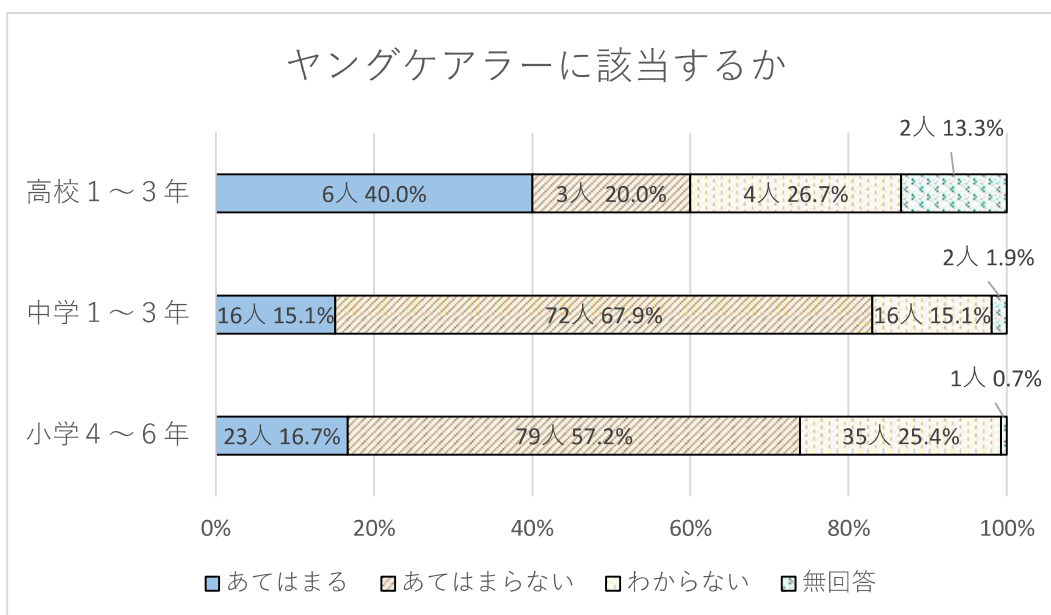
(1) - 9 ヤングケアラーについて

(1) - 1において家庭内でケアが必要な人がいると回答した259人(小学4~6年・138人、中学1~3年・106人、高校1~3年・15人)のヤングケアラーの該当の有無や希望するサポートに関し、考察した。

- ① 自分自身はヤングケアラーにあてはまらないと回答した小学生、中学生、高校生の合計は154人(59.5%)となった。
- ② 自分自身はヤングケアラーにあてはまると回答した小学生、中学生、高校生の合計は45人(17.4%)となり、少なくとも各年代の1割以上の子どもたちがヤングケアラーの認識を有している。また、このような子どもたちは、勉強や将来を含め自分自身に関することを相談したいと希望する回答が多くなっている。

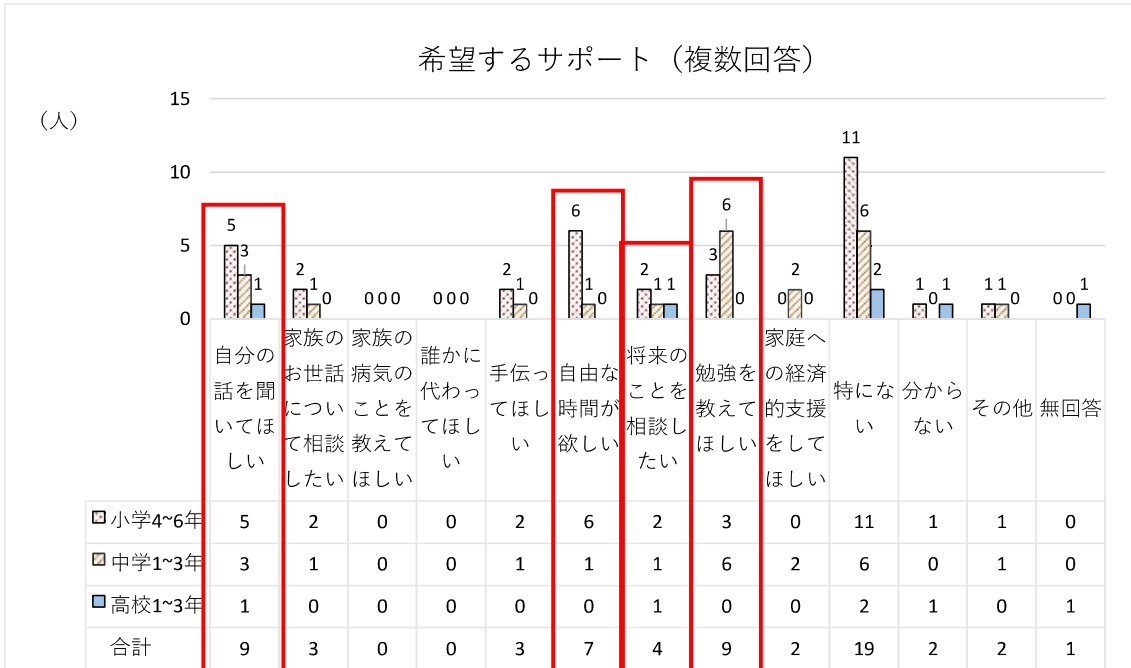
◆ヤングケアラーに該当するか

「ヤングケアラーに該当するか」に関し回答を求めたところ、あてはまると回答した子どもたちが小学4~6年で23人(16.7%)、中学1~3年で16人(15.1%)、高校1~3年で6人(40.0%)となった。



◆希望するサポート

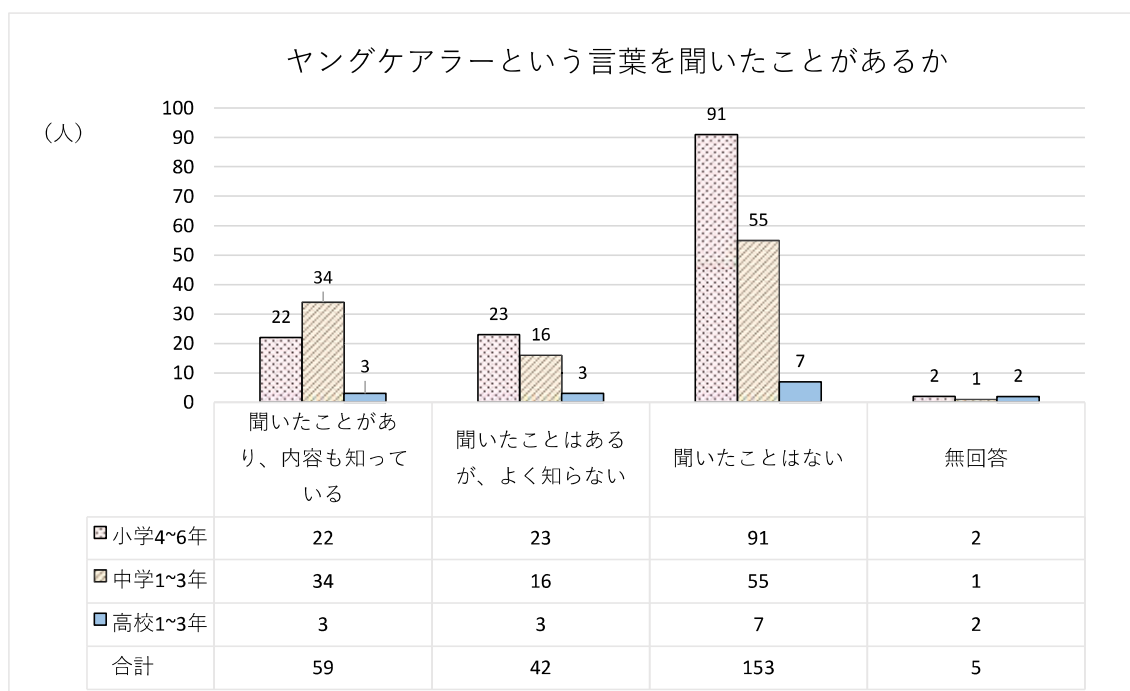
自分自身がヤングケアラーにあてはまると回答した45人（小学4～6年・23人、中学1～3年・16人、高校1～3年・6人）に希望するサポートについて複数回答を求めたところ、「特にない」が19人（42.2%）と最も多かったものの、「自分の話を聞いてほしい」、「勉強を教えてほしい」、「将来のことを相談したい」という回答もみられた。また、小学生では「自由な時間が欲しい」という回答も多くなっている。



(1) - 10 ヤングケアラーという言葉を知っているか

「ヤングケアラーという言葉を知っているか」に関し、家庭内でケアが必要な人がいると回答した259人に回答を求めたところ、「聞いたことがない」という回答が小学生、中学生、高校生の合計で153人(59.0%)と最も多かった。

また、ヤングケアラーという言葉を知っている内容を「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した子どもたちは、小学生が22人(15.9%)、中学生が34人(32.1%)、高校生が3人(20.0%)とヤングケアラーに対する認知度は中学生が最も高かった。



(2) 家庭内でのケアの有無による生活への影響について

生活の状況や学校での状況に関する回答について、家庭内でケアを行っている人とケアを行っていない人の比較を行い、ケアの有無による影響の分析を行った。

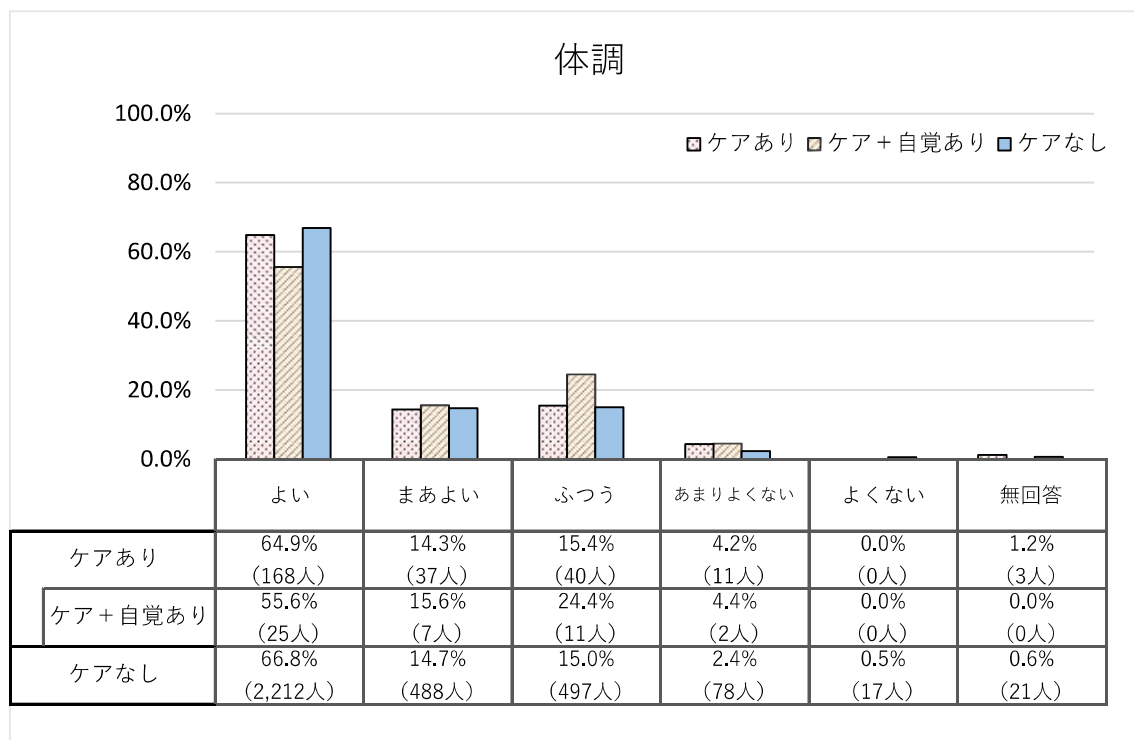
さらに、ケアを行っている人のうちヤングケアラーの自覚がある人を抽出した分析も行った。

※ヤングケアラーの自覚がある人の人数は、ケアを行っている人の内数としている。

(2) - 1 本人の体調について

小学生、中学生、高校生の回答者 3,572 人の体調の状況について、ケアの有無による関係性を考察した。

現在の体調に関し、「よい」、「まあよい」、「ふつう」と回答した割合は、家庭内でケアが必要な人がいる場合（245 人・94.6%）といない場合（3,197 人・96.5%）でほとんど差はなく、ケアの有無による影響は小さいものと考えられる。ただし、「あまりよくない」と回答した割合は、家庭内でケアが必要な人がいる場合（11 人・4.2%）のほうがない場合（78 人・2.4%）の 1.8 倍となっており、子どもたちの体調に何らかの影響を及ぼした可能性が考えられる。



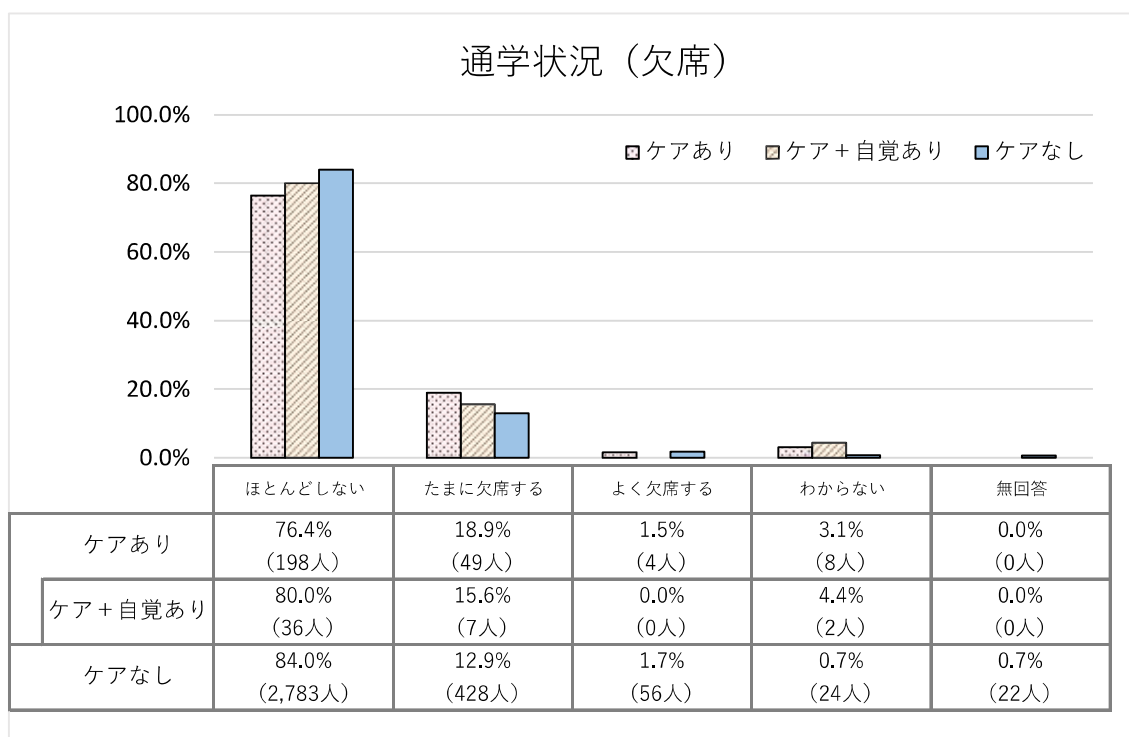
(2) - 2 通学状況について

小学生、中学生、高校生の回答者 3,572 人の学校の通学状況について、ケアの有無による関係性を考察した。

◆学校の欠席の状況

学校を「ほとんど欠席しない」と回答した割合は、家庭内でケアが必要な人がいる場合（198 人・76.4%）のほうがいない場合（2,783 人・84.0%）よりも 7.6 ポイント低くなっている。また、学校を「たまに欠席する」と回答した割合は家庭内でケアが必要な人がいる場合（49 人・18.9%）のほうがいない場合（428 人・12.9%）よりも 6.0 ポイント高くなっている。

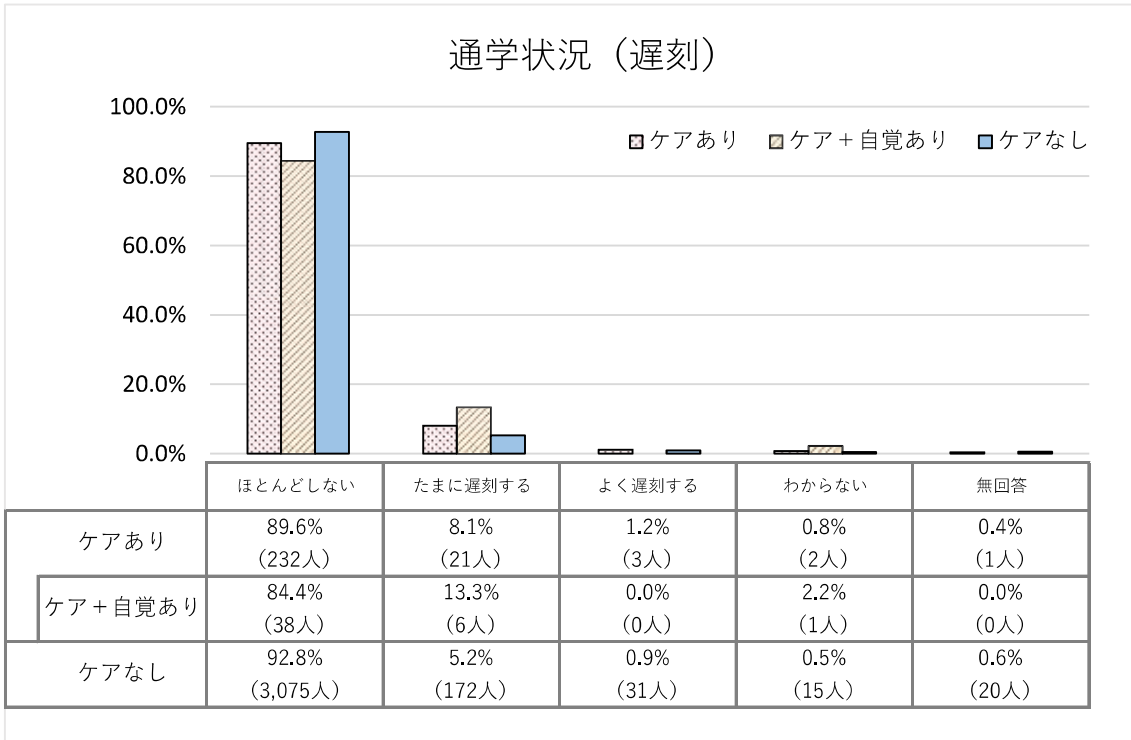
このようなことから、ケアの有無が小学生、中学生、高校生の学校の欠席に何らかの影響を及ぼした可能性が考えられる。



◆学校の遅刻の状況

遅刻を「ほとんどしない」と回答した割合は、家庭内でケアが必要な人がいる場合（232人・89.6%）のほうがない場合（3,075人・92.8%）よりも3.2ポイント低くなっている。

また、「たまに遅刻する」、「よく遅刻する」と回答した割合も家庭内でケアが必要な人がいる場合のほうが高いことを考えると、小学生、中学生、高校生の遅刻に何らかの影響を及ぼした可能性が考えられる。

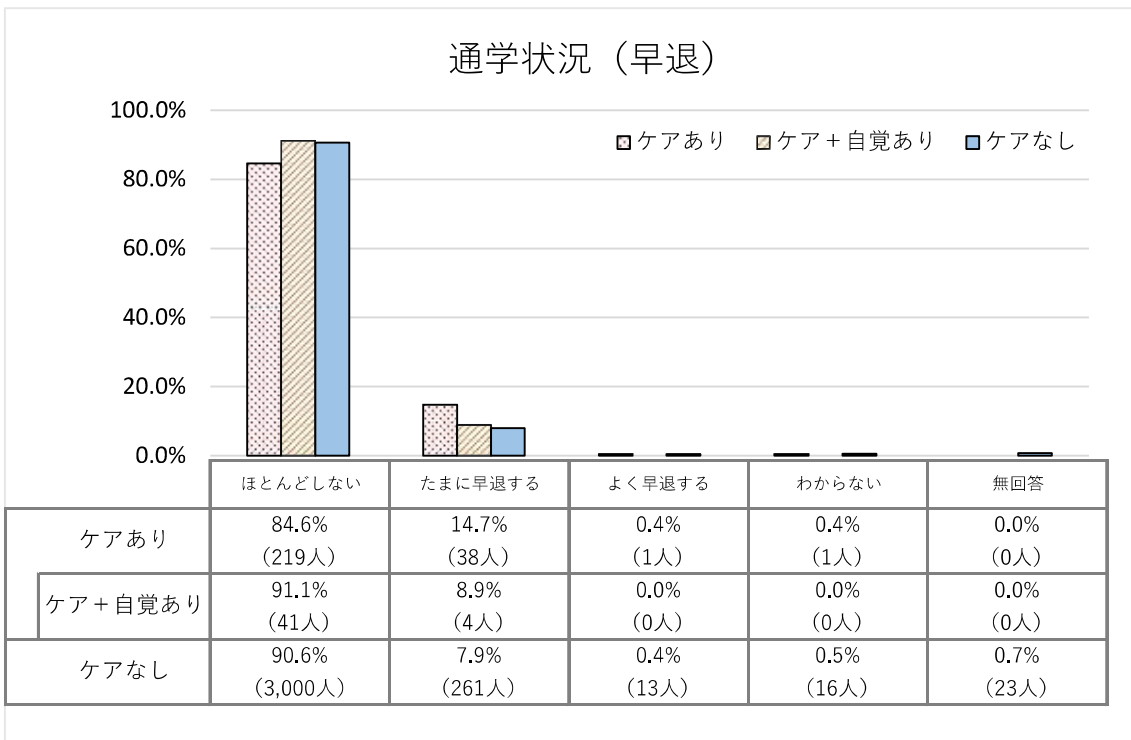


◆学校の早退の状況

早退を「ほとんどしない」と回答した割合は、家庭内でケアが必要な人がいる場合（219人・84.6%）のほうがいない場合（3,000人・90.6%）よりも6.0ポイント低くなっている。

また、「たまに早退する」と回答した割合は、家庭内でケアが必要な人がいる場合（38人・14.7%）のほうがいない場合（261人・7.9%）よりも6.8ポイント高くなっている。

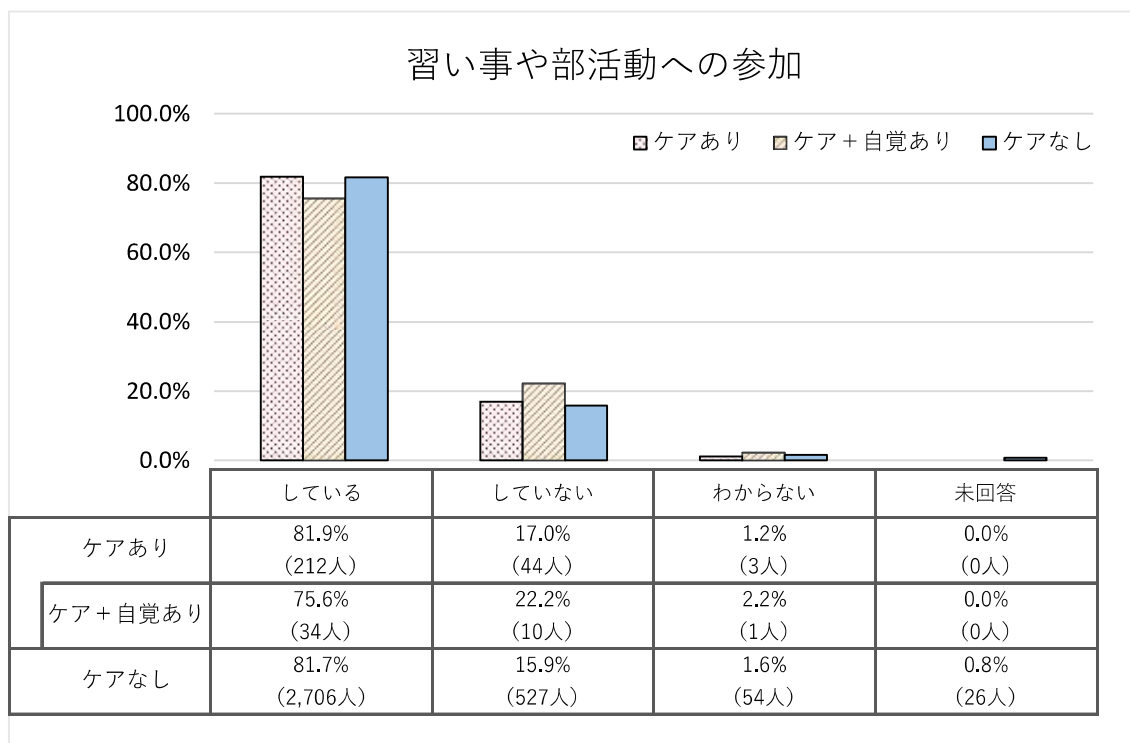
このようなことからケアの有無が小学生、中学生、高校生の学校の早退に何らかの影響を及ぼした可能性が考えられる。



(2) - 3 習い事や部活動への参加

小学生、中学生、高校生の回答者 3,572 人の習い事や部活動の状況について、ケアの有無による関係性を考察した。

習い事や部活動を「している」と回答した割合は、家庭内でケアが必要な人がいる場合（212 人・81.9%）といない場合（2,706 人・81.7%）でほとんど差はなく、ケアが必要な人の有無による影響は小さいものと考えられる。習い事や部活動を「していない」と回答した割合は家庭内でケアが必要な人がいる場合（44 人・17.0%）のほうがいない場合（527 人・15.9%）よりも 1.1 ポイント高くなっている。

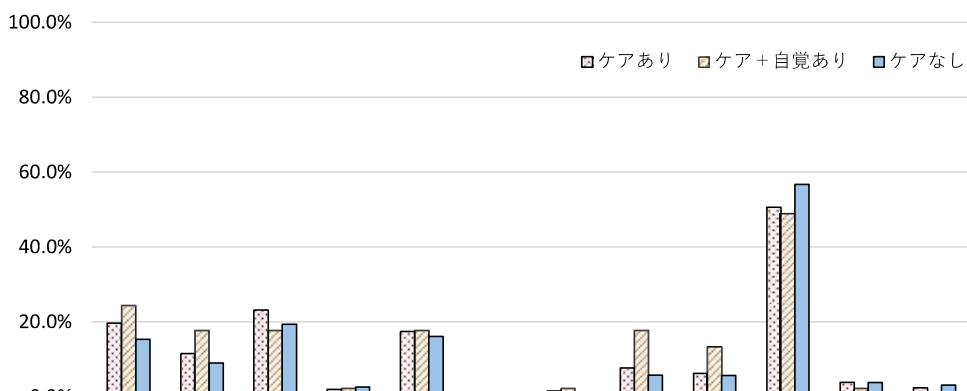


(2) - 4 ふだんの学校生活であてはまるもの

小学生、中学生、高校生の回答者 3,572 人のふだんの学校生活の状況について、家庭内でケアが必要な人の有無による関係性を考察した。

- ①あてはまるものが「特にない」と回答した割合が最も多く、家庭内でケアが必要な人がいる場合（131人・50.6%）といない場合（1,880人・56.7%）とも半数以上を占めている。
- ②・「忘れ物が多い」（ケアが必要な人がいる場合（60人・23.2%）、いない場合（642人・19.4%））
- ・「授業に集中できない」（ケアが必要な人がいる場合（51人・19.7%）、いない場合（509人・15.4%））
 - ・「提出物が遅れる」（ケアが必要な人がいる場合（45人・17.4%）、いない場合（533人・16.1%））
 - ・「宿題や課題ができない」（ケアが必要な人がいる場合（30人・11.6%）、いない場合（298人・9.0%））
- といった項目への回答が多かった。
- ③・「学校でひとりで過ごすことが多い」（ケアが必要な人がいる場合（20人・7.7%）、いない場合（191人・5.8%））
- ・「友だちと過ごす時間が少ない」（ケアが必要な人がいる場合（16人・6.2%）、いない場合（190人・5.7%））
- に関してはケアの有無が小学生、中学生、高校生の学校生活に何らかの影響を及ぼした可能性が考えられる。

ふだんの学校生活であてはまるもの（複数回答）



	授業に集中できない	宿題や課題ができない	忘れ物が多い	習い事や部活動を休む	提出物が遅れる	修学旅行等を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校でひとりで過ごすことが多い	友だちと過ごす時間がない	特にない	わからない	無回答
ケアあり	19.7% (51人)	11.6% (30人)	23.2% (60人)	1.9% (5人)	17.4% (45人)	0.4% (1人)	1.5% (4人)	7.7% (20人)	6.2% (16人)	50.6% (131人)	3.9% (10人)	2.3% (6人)
ケア+自覚あり	24.4% (11人)	17.8% (8人)	17.8% (8人)	2.2% (1人)	17.8% (8人)	0.0% (0人)	2.2% (1人)	17.8% (8人)	13.3% (6人)	48.9% (22人)	2.2% (1人)	0.0% (0人)
ケアなし	15.4% (509人)	9.0% (298人)	19.4% (642人)	2.6% (86人)	16.1% (533人)	0.4% (12人)	0.7% (22人)	5.8% (191人)	5.7% (190人)	56.7% (1,880人)	3.9% (129人)	3.2% (106人)

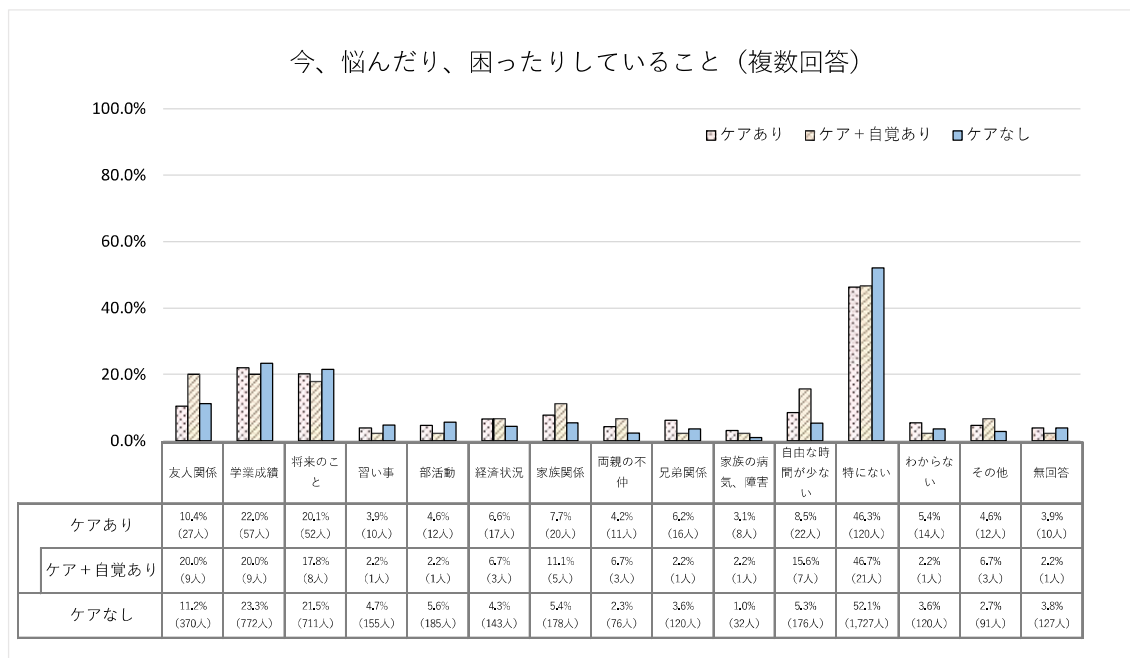
(2) - 5 今、悩んだり、困ったりしていること

小学生、中学生、高校生の回答者 3,572 人の悩み事や困り事の状況について、ケアの有無による関係性を考察した。

今、悩んだり、困ったりしていることが「特にない」と回答した割合は、家庭内でケアが必要な人がいる場合（120 人・46.3%）といない場合（1,727 人・52.1%）とも半数程度となっている。

悩み事や困り事としては、

- ・「学業成績」（ケアが必要な人がいる場合（57 人・22.0%） いない場合（772 人・23.3%））
 - ・「将来のこと」（ケアが必要な人がいる場合（52 人・20.1%） いない場合（711 人・21.5%））
 - ・「友人関係」（ケアが必要な人がいる場合（27 人・10.4%） いない場合（370 人・11.2%））
- といった項目への回答が多かった。

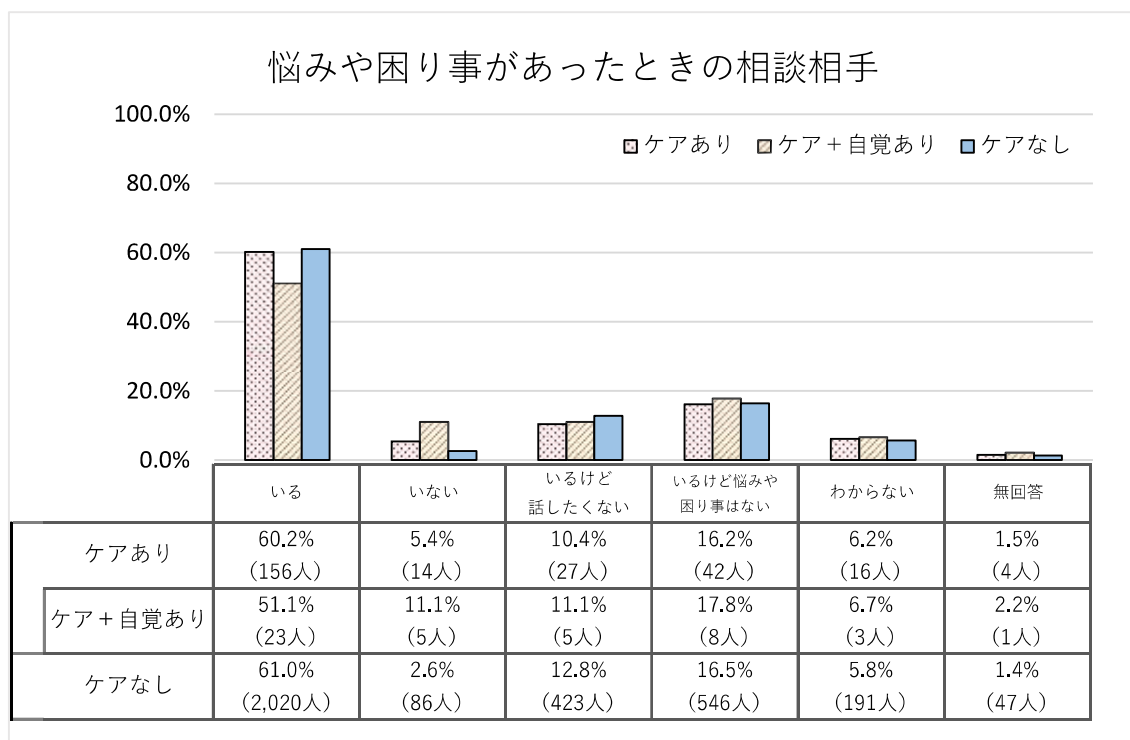


(2) - 6 悩みや困り事があったときの相談相手の有無

小学生、中学生、高校生の回答者 3,572 人の悩みや困り事があったときに近くで話を聞いてくれる相談相手の状況について、家庭内でケアが必要な人の有無による関係性を考察した。

相談相手が「いる」と回答した割合が最も多く、家庭内でケアが必要な人がいる場合（156 人・60.2%）といない場合（2,020 人・61.0%）とも 6 割以上となっている。

相談相手が「いない」と回答した割合は、家庭内でケアが必要な人がいる場合（14 人・5.4%）のほうがいない場合（86 人・2.6%）よりも 2.8 ポイント高くなっており、ケアの有無が小学生、中学生、高校生の相談相手の有無に何らかの影響を及ぼした可能性が考えられる。



(3) 自由意見について (一部抜粋)

(アンケートの感想)

小学生

- ・「ヤングケアラー」という子ども達がいるということを初めて知り、その子ども達は、一生けん命がんばっていてその子ども達を応援したい気持ちがあります。私はこの「ヤングケアラー」についてたくさん調べたいです。
- ・ヤングケアラーのことは、テレビなどで知っていたのですが、具体的な内容は知らなかったので知れて良かったです。
- ・悩み事があつたらすぐに相談することが大切ということがわかりました。
- ・寄り添ってくれてる気がして嬉しい。

中高生

- ・ヤングケアラーという言葉は聞いたことはあったけど、言葉の意味や、詳しい内容等は知らなかったので知れてよかったです。これを機会に、ヤングケアラーについて考えてみたいなと思いました。
- ・ヤングケアラーはよく街でポスターとしてみかけることがあります。さいきんやとひろまってきたかんじなのでもっとみんなに知ってもらって早急に対応すべきだと思いました。
- ・ヤングケアラーはすごく悪いことじゃないとわかった。自分はヤングケアラーを悪いイメージだ感じていた。
- ・幼いながらに日頃から大人と同じかそれ以上の苦勞を押し付けられている子どもたちがいることがとても悲しいことだと思いました。
- ・ヤングケアラーという言葉は聞いたことがあったけど、どんな人のことを言うのかは知らなかったので今回のアンケートでしれて良かったです。

(ケアの相談について)

小学生

- ・私は好き(善意)で、身の回りの家事をやっています。ですが、ときどきイライラしてしまったり、気持ちが重くなったり、頭が痛くなることはあります。

中高生

- ・気軽に学校で話せる内容ではないと思うし、かなり親しい仲の人でないと話せないと思うので、もし周りにも気づけないのが心配。気づいてもどう接するのが正解か分からない。変に気にかけても逆効果かもしれない…
- ・認知症の人が同じ話を何回かする時、その話を知っている体で聞いていいのかわからないふりをして聞いたほうがいいのかどうかを教えてください。
- ・うちは親が障害のある兄弟の面倒を見てくれていますが、自分達でもできることがあるのではないかと思った。

(悩みごと)

小学生

- ・いとも含まれるのかなと思いました。
- ・兄が母に悪口を言うようになり、困っている。なので、父が帰ってくるのが待ち遠しいです。
- ・お父さんが機嫌が悪い時、家族にあたって怖いです。怒っている時は、家族の雰囲気グシーンとなります。
- ・自分の心があまり良くないと気づいた。最近、保健室に行くことが多い。あまり相談できていないのでモヤモヤしている。
- ・友達に不登校の子がいて、私の友達です。私は、悩みはあまりありませんが、その友達は、こういこと悩んでいるのだろうか…と思った。
- ・友達が学校に来なくて寂しい早く来てほしいです。
- ・自分に障害があり、学校での支援が足りないと思う。支援の先生が少ないから、いつも我慢しないとけない。

中高生

- ・私は、介護してると思ってません。毎日、介護がほとんど必要でないからかもですが家族と愚痴も不満もお互い言い合って、喧嘩もします。私の出来ないこと、わからないことは、やってくれるし、困っているときは、自分の体調が悪くても解決を見つけるまで、考えたり協力してくれているので、私も助けてあげるの嫌ではないです。薬の管理と足のケアをやってます。
- ・自分は悩みや困りごとを溜め込みやすい人だなと思いました。
- ・ヤングケアラーという言葉を知りました。わたしは家族7人います。楽しいですが両親は共働きで時々子供たちに強い口調で言われるのでつらい時があります。学校は友達と話せるのが楽しいです。

(自治体への要望)

小学生

- ・前にNHKでひきこもり先生というドラマを見て、そのステップルームみたいなクラスがどの学校にもあるといいと思いました。

中高生

- ・ヤングケアラーの人の中には親や兄弟のお世話で学校に通えなくなってしまう人もいます。そのような人たちにもしっかりと学習が受けられるような制度を設けてほしいなと思います。
- ・ヤングケアラーの人たちを助けてあげられる制度を作ってあげてください！
- ・自分がヤングケアラーという自覚がない人もいますので心のケアをしてあげてほしい。
- ・子どもたちに地域包括支援センター、社会福祉協議会を見学する機会を与えてあげてほしい。